

エージェント・ワークスペース:

日本市場におけるGoogle Agent Spaceとその競合の比較分析

エグゼクティブサマリー

AIエージェントプラットフォーム、すなわち「エージェント・ワークスペース」の日本市場は、二つの主要セグメントへの分岐を示している。一つは、GoogleやMicrosoftなどのハイパースケーラーが主導する、従業員の生産性向上を目的とした統合型スイートである。もう一つは、国内外の専門プレイヤーが提供する、開発者中心または特定業務に特化したソリューション群である。

市場の競争力学は、本質的にエコシステムの戦いとなっている。GoogleはWorkspaceと検索、MicrosoftはMicrosoft 365とAzure、そしてSalesforceは支配的なCRMとData Cloudをそれぞれの中核的な強みとして活用している。これに対し、チャレンジャーや国内プレイヤーは、アクセシビリティ、価格、オープンソースの柔軟性、そして深いローカリゼーションを武器に競争を挑んでいる。

市場の主要なトレンドは、コンテンツ作成を「支援」する受動的な「コパイロット」から、ユーザーに代わって多段階のタスクを「実行」する自律的な「エージェント」への技術的な移行である¹。この移行を可能にする主要因として、エージェント間の相互運用性(例:A2Aプロトコル)と、エージェント構築の民主化(ノーコード/ローコード開発)が挙げられる³。

日本市場に特有の洞察として、顧客対応業務(Salesforce)で明確なROIを実証できるプラットフォームや、日本の大手テクノロジー企業(Felo、富士通など)と提携するプラットフォームが強い市場牽引力を示している⁵。また、Sakana AIのような基礎モデルのイノベーターの出現は、日本市場が単なる技術消費地から、地域独自のイノベーション創出地へと移行しつつあることを示唆している⁷。

本レポートが提示する最上位の推奨事項は、日本企業にとって最適なプラットフォームの選択は、単純な機能比較ではなく、プラットフォームの核心的哲学(例:統合スイートか、モジュラーツールキットか)と、自社の既存技術スタック、内部の技術力、そして主要なビジネス目標との戦略的整合性に基ついて行われるべきである、という点にある。

Section 1: 新たなフロンティアの定義 - AIエージェントプラットフォームの台頭

コパイロットからエージェントへ

近年の生成AI技術の進化は、エンタープライズソフトウェアにおける新たなパラダイムシフトを引き起こしている。それは、ユーザーの作業を「支援」する「コパイロット」から、ユーザーの目標達成のために自律的に「行動」する「エージェント」への移行である。コパイロットが主にコンテンツ生成や要約といったタスクに焦点を当てるのに対し、AIエージェントは、計画、推論、ツールの使用、そして複数のステップからなるタスクの実行能力によって定義される¹。この能力により、エージェントは単なる情報提供者ではなく、ビジネスプロセスの能動的な実行者となる。

エージェント・ワークスペースの構造

この新しいパラダイムを具現化するのが、「エージェント・ワークスペース」と呼ばれるプラットフォームである。Google Agent Spaceをその典型例として、現代的なエージェント・ワークスペースを構成する不可欠な要素を以下のように分解できる。

1. **統一されたナレッジアクセス (Unified Knowledge Access):** プラットフォームの基盤となるのは、組織内に散在する多様なデータサイロ(例: Google Drive, Confluence, SharePoint, Salesforce)に接続し、横断的に検索する能力である⁹。これは多くの場合、RAG(Retrieval-Augmented Generation: 検索拡張生成)技術によって実現され、エージェントが正確で文脈に即した応答を生成するための知識源となる¹²。
2. **インテリジェントな推論とオーケストレーション (Intelligent Reasoning and Orchestration):** 中核には、GoogleのGeminiのような大規模言語モデル(LLM)が存在する⁹。この「頭脳」がユーザーの意図を理解し、複雑な要求を具体的なタスクに分解し、それを実行するために最適なツールやアクションを選択する役割を担う。
3. **アクションと自動化 (Action and Automation):** エージェントは、情報を検索・生成するだけでなく、実際にタスクを実行する能力を持つ。これには、ドキュメントの作成、電子メールの送信、CRMシステム内のレコード更新など、ファーストパーティおよびサードパーティのアプリケーション内での操作が含まれる⁹。
4. **人間参加型プロセスとカスタマイズ (Human-in-the-Loop and Customization):** 最新のプラットフォームは、開発のスペクトラム全体をカバーする。一般的な業務向けの事前構築済みエージェントから始まり、ビジネスユーザーがコードを書かずにエージェントを構築できるノーコード/ローコードのビルダー、そして開発者が複雑なロジックを実装するためのプロコードSDK(ソフトウェア開発キット)まで、多様なカスタマイズ手段を提供する⁹。

エージェント・ワークスペースの出現は、単なる新しいソフトウェアカテゴリの誕生を意味するのではない。それは、エンタープライズサーチ、ワークフロー自動化、そして生成AIという、これまで別々のツールが担ってきた機能を、単一の対話型インターフェースに統合する、エンタープライズにおけるヒューマン・コンピュータ・インタラクションの根本的な変革である。この統合により、情報の発見、コンテンツの作成、タスクの実行という行為の間の境界線が曖昧になり、従業員は平均4~6個のアプリケーションを切り替えながら作業するという非効率から解放される可能性を秘めている¹⁰。

Section 2: Google Agent Spaceの詳細分析

コアとなる提供価値

Google Agent Spaceの核心的な提供価値は、Googleが持つ検索技術とGeminiモデルの強みを活かし、企業内に散在する業務アプリケーションを単一のAI搭載ワークスペースに接続することで、従業員の生産性を飛躍的に向上させることにある⁹。その目的は、従業員が日常的に直面する、複数のアプリケーション間を頻繁に行き来する非効率性を解消することである¹⁰。

技術アーキテクチャ

Google Agent Spaceは、Google Cloudの堅牢なインフラ上に構築されており、その技術スタックは以下の要素で構成される。

- **基盤モデル:** 推論と生成の中核を担うのは、Geminiファミリーのモデルである⁹。Googleは、エンタープライズグレードのセキュリティ、プライバシー、コンプライアンスを最優先事項として設計に組み込んでいることを強調している⁹。
- **ナレッジレイヤー:** RAG(検索拡張生成)は、包括的なエンタープライズナレッジグラフを通じて実装される。Confluence、Jira、Microsoft SharePoint、Salesforceなど、80を超える主要なエンタープライズアプリケーションへの接続が可能である¹⁰。さらに、デジタルパーサー、OCR、そして構造化文書の階層を認識するレイアウトパーサーといった高度なドキュメント解析技術を用いることで、検索の関連性と回答の質を向上させている¹²。
- **エージェントレイヤー:** ユーザーは、Googleが提供する事前構築済みエージェント(例: アイデア生成、ディープリサーチ)を即座に利用できるほか、ノーコードの「Agent Designer」を用いて独自のカスタムエージェントを作成することも可能である⁹。また、他のプラットフォームで構築されたエージェントとの互換性も確保されている⁹。
- **開発者エコシステム:** Googleは、オープンソースの「Agent Development Kit (ADK)」と、エージェント間の相互運用を目指すオープンプロトコル「Agent2Agent (A2A)」を導入することで、開発者コミュニティを巻き込んだオープンなマルチエージェントエコシステムの構築を戦略的に推進している³。ADKは、Pythonベースのフレームワークであり、開発者はこれを用いて複雑なマルチエージェントシステムを構築できる¹⁵。A2Aは、異なるベンダーやフレームワークで構築されたエージェント同士が協調して動作するための標準通信規約を目指すものである³。

サービスティアと価格設定

Google Agent Spaceは、予測可能性と透明性を重視した、シンプルで分かりやすい3段階のユーザー単位・月額課金モデルを採用している。

表1: Google Agent Space - サービスティア、機能、価格

ティア名	価格 (USD/ユーザー/月)	主要機能	対象ユーザー
NotebookLM for Enterprise	\$9	<ul style="list-style-type: none"> ドキュメントのアップロードと対話 AIによる要約、インサイト抽出 音声サマリー生成 	個人のデータ分析や情報整理を行う従業員
Agentspace Enterprise	\$25	<ul style="list-style-type: none"> NotebookLM for Enterpriseの全機能 接続された全アプリを横断する統合エンタープライズ検索 マルチモーダル検索 (テキスト、画像など) 回答における引用元の表示 	チームや部門横断で情報を検索・活用する必要がある従業員
Agentspace Enterprise Plus	\$45	<ul style="list-style-type: none"> Agentspace Enterpriseの全機能 アプリケーション内でのアクション実行 複数ステップのワークフロー自動化 ノーコードでのカスタムエージェント作成と展開 リサーチエージェントへのアクセス 	業務プロセスを積極的に自動化・効率化したいパワーユーザーやビジネス部門

出典:¹²

戦略的ポジショニング

Googleは、Agent Spaceをマーケティング、営業、エンジニアリング、人事といったあらゆる業務部門に適用可能な水平プラットフォームとして位置づけている⁹。その戦略は二つの柱から成る。第一に、消費者向けサービスで培った圧倒的な検索能力とAI技術をエンタープライズ市場に持ち込み、企業ナレッジの発見と活用の領域で勝利すること。第二に、ADKとA2Aプロトコルを中心に開発者エコシステムを育成し、次世代のマルチエージェントアプリケーションにおけ

る基盤プラットフォームとしての地位を確立することである。

日本市場への適合性

Google Cloudは東京リージョンを擁しており、日本国内でのサービス提供基盤は整っている²²。Agent Spaceの明快な価格設定と、汎用的な生産性向上に焦点を当てたアプローチは、幅広い業種・規模の日本企業にとって魅力的であると考えられる。ある国内の比較記事では、Googleが強みを持つ領域(ナレッジマネジメント、リサーチなど)での活用が推奨されている²³。しかしながら、本調査の範囲では、Agent Space自体の具体的な日本国内での導入事例は見当たらず、これは競合他社と比較した場合の現時点での弱点と言える。

Section 3: ハイパースケーラーの戦場: 直接比較

AIエージェントプラットフォーム市場におけるGoogle、AWS、Microsoftの競争は、単なる機能の優劣を競うものではない。それは、どの「エージェント哲学」がエンタープライズ市場を制するかを巡る、より根源的な戦略の衝突である。この三社の提供価値を分析すると、それぞれが異なるアプローチを取っていることが明らかになる。Googleは、すぐに使える統合アプリケーションとしてAgent Spaceを提供する。AWSは、開発者があらゆる部品を組み合わせるソリューションを構築するための開発者ツールキットとしてBedrockを提供する。そしてMicrosoftは、既存の広大なソフトウェア群にAIを深く組み込む埋め込みエコシステムとしてAzure AI Foundryを推進している。

この根本的な違いは、各プラットフォームの技術アーキテクチャ、価格モデル、そして主要なターゲットユーザーを決定づけている。Googleがビジネスユーザーに直接訴求する製品を販売しているのに対し、AWSはクラウド開発者にインフラとツールを、Microsoftは既存のエンタープライズ顧客に自社製品の拡張機能を提供している。この戦略的な差異を理解することは、各プラットフォームの真の競争力を評価する上で不可欠である。

表2: ハイパースケーラープラットフォームのアーキテクチャと戦略の比較

属性	Google Agent Space	Amazon Bedrock Agents	Microsoft Azure AI Foundry
核心的哲学	統合アプリケーション	開発者ツールキット	埋め込みエコシステム
主要ターゲット	ビジネス従業員	クラウド開発者	エンタープライズ開発者

			(M365/Azure)
主要エントリーポイント	統合検索と生産性向上	API & SDK	Copilot Studioと既存アプリ
エージェント作成モデル	事前構築/ノーコード優先	コード優先 (指示/Lambda)	プロコードフレームワーク (AutoGen/Semantic Kernel)
マルチエージェント	A2Aプロトコル (オープン標準)	ネイティブなオーケストレーション	フレームワークベース (AutoGen)
価格パラダイム	予測可能 (ユーザー単位サブスクリプション)	粒度的 (完全従量課金)	粒度的 (完全従量課金)

出典:¹³

3.1 Amazon Bedrock Agents: モジュラーなAPIファーストの挑戦者

- **アーキテクチャ:** Amazon Bedrockは、単一の製品ではなく、個別のサービス群から構成される。開発者は、RAGのためのKnowledge Bases、タスク実行をオーケストレーションするAgents、そして視覚的なワークフローを設計するFlowsといったコンポーネントを組み合わせるソリューションを構築する²⁴。特に、multi-agent collaboration機能は、スーパーバイザーエージェントが複数の特化型エージェントを調整・管理することを可能にし、複雑な業務プロセスの自動化を実現する²⁹。最大の特長は、Anthropic、Cohere、Meta、Stability AI、そして自社のAmazon Titanなど、市場をリードする多様な基盤モデルから最適なものを自由に選択できる点にある³⁰。
- **主要な差別化要因:** 柔軟性と制御性。開発者は特定のモデルや固定的なアプリケーション構造に縛られることなく、要件に応じて最適なコンポーネントを選択できる。また、エージェントの思考プロセス("Chain of Thought")をトレースできる機能は、詳細なデバッグと挙動のチューニングを可能にし、開発者に深いレベルでの制御を提供する³⁰。
- **価格モデル:** 非常に複雑かつ粒度の細かい従量課金制。「エージェント」自体に直接的な料金は発生せず、それが利用する基盤モデルの推論コスト(オンデマンドまたはプロビジョンドスルーPUT)、データ自動化タスクの実行料金、Flowのノード遷移回数など、基盤となるコンポーネントの利用料が課金される²⁶。このモデルは、専門家にとってはコスト最適化の機会を提供する一方で、初心者にとってはコスト予測が困難になる可能性がある。
- **日本市場への適合性:** AWS東京リージョンの存在により、日本での強力なプレゼンスを誇る²²。その開発者中心のアプローチは、KINTOテクノロジーズ、セゾンテクノロジー、富士通、フレイ・スリーといった、技術的に高度な日本の大企業から支持を得ている。これらの企業は、既存のAWSスタックとの緊密な統合と、提供される高度な制御性を高く評価している³³。

3.2 Microsoft Azure AI Foundry Agent Service: 統合エンタープライズエコシステム

- **アーキテクチャ:** Azure AI Foundryという、より広範なプラットフォーム内に位置づけられるツールチェーンであり、エージェントの構築、展開、スケーリングのためのマネージドサービスとして提供される²⁵。RAGには Azure AI Search、アクション実行には Azure Logic Apps、構造化データの参照には Microsoft Fabricといった他の Azure サービスを深く活用する³⁷。マルチエージェントシステムは、 AutoGen や Semantic Kernel といったプロコードフレームワークを通じて実現される²⁵。
- **主要な差別化要因:** Microsoft のエンタープライズエコシステムとの比類なき統合力。 エージェントが SharePoint 上の文書を知識源とし、 Copilot Studio を介して Microsoft 365 Copilot と相互運用できる点は、他社にはない強力な競争優位性となっている²⁵。 また、 Microsoft がサイバーセキュリティに大規模な投資を行っていることを背景に、セキュリティとガバナンスが強く打ち出されている²⁷。
- **価格モデル:** 利用した基盤となる Azure サービスの量に基づく従量課金制³⁷。例えば、 エージェントを利用すると、選択した LLM (例: GPT-4o) の推論コスト、 Azure AI Search のクエリ料金、 Logic Apps の実行料金などがそれぞれ発生する³⁹。コスト試算ツールは提供されているが、詳細なシナリオ設計が必要となる⁴⁰。
- **日本市場への適合性:** Microsoft は日本のエンタープライズ市場で絶大なシェアを誇る。 三菱重工業、第一三共、JERA、JR西日本といった多くの日本企業が既に Azure OpenAI Service を利用しており、これが Agent Service への自然な導入経路となっている⁴¹。 沢井製薬や大和証券などの事例は、日本国内での積極的な導入と開発が進んでいることを示している⁴²。 Microsoft の戦略は、日本のビジネスパーソンが日常的に使用している ツールに AI をシームレスに拡張することにある。

3.3 Salesforce Agentforce: CRM中心の自動化パワーハウス

- **アーキテクチャ:** Salesforce Platform上にネイティブに構築されており、Atlas Reasoning Engineがその思考の中核を担う⁴⁴。そのアーキテクチャは、統合されたリアルタイムの顧客データ(「カスタマーグラフ」)を提供するData Cloudと不可分である²。エージェントは、この信頼できる顧客データを基盤として行動する。アクションの実行は、既存のSalesforce開発者が習熟しているFlow(ローコード)およびApex(プロコード)を通じて行われる²。
- **主要な差別化要因:** 深く文脈化された、データ駆動型の自動化。汎用プラットフォームとは異なり、Agentforceは信頼性の高いCRMデータを操作するために明示的に設計されている。その真価は、単に推論する能力だけでなく、完全かつリアルタイムの顧客ビューを持って推論する能力にある⁴⁵。ローコード(Agent Builder)からプロコード(Python SDK, Apex)まで、明確な開発パスが提供されている点も特長である²。
- **価格モデル:** 「Flex Credits」に基づく、独自のアクション指向の従量課金モデルを採用。顧客はクレジットを購入し(例:10万クレジットで60,000円)、エージェントが実行するアクションごとに一定数のクレジット(例:1アクションあたり20クレジット、約15円相当)を消費する⁴⁸。このモデルは、コストをビジネス上の成果に直接結びつけるものであり、ユーザー単位やトークン単位の課金モデルとは一線を画す。従業員向けの無制限利用アドオンも用意されている⁴⁸。
- **日本市場への適合性:** 非常に高い。Salesforceは日本市場で大きなシェアを持ち、Agentforceは営業やサービスといった中核的な業務プロセスに直接的な価値を提供する。既にアフラック生命保険やGigiといった著名な国内導入事例が存在し、コールセンターの業務量を70%削減するなど、具体的な成果を上げている⁶。特定業界向けのAgentforceや、パートナーが開発したエージェントを流通させる「AgentExchange」の存在も、日本市場での魅力をさらに高めている⁵⁰。

Section 4: チャレンジャーの動向: 代替モデルと破壊的可能性

ハイパースケラーがエコシステムの中で市場を席巻しようとする一方で、異なるアプローチで価値を提供するチャレンジャー群も台頭している。これらのプラットフォームは、巨大なプロプライエタリなクラウドスタックへのロックインを望まない、あるいは特定のニーズを持つ日本企業にとって魅力的な選択肢となる。彼らの競争戦略は、機能の直接対決ではなく、アクセシビリティ(使いやすさ)、柔軟性(オープンソース)、そしてコミュニティという三つの要素に集約される。

この戦略は、開発の迅速性、コスト効率、プラットフォームからの独立性を重視する開発者や中小企業に強く訴求する。彼らは、ハイパースケラーが提供するような深いエコシステム統合よりも、手軽に始められ、安価で、適応性の高いツールを求める傾向がある。このアプローチがエンタープライズレベルでも通用しうることは、リコーとDifyの提携事例が示している⁵²。

4.1 オープンソースとローコードの先駆者: Dify & Botpress

- **Dify:** 視覚的なワークフロービルダー、RAGパイプライン、エージェントフレームワークを統合した、本番環境対応の包括的なオープンソースプラットフォームとして自らを位置づけている⁵³。データ管理の観点からセルフホスティングが可能である一方、手軽に試せるクラウドサービスも提供している⁵⁵。当初はLangChainに依存していたが、柔軟性を高めるために、よりモジュラーな「Beehive」アーキテクチャへと移行した⁵⁶。多様なLLMをサポートしている点も特徴である⁵⁴。
 - 価格: クラウドサービスは、メッセージクレジットや機能に基づいたフリーミアムモデル (Professional, Teamプランなど)を採用している⁵³。オープンソース版は無料で利用できるが、自前でのホスティングが必要となる⁵⁵。
 - 日本での適合性: Difyは日本でも、特に開発者や小規模な組織の間で注目を集めており、コミュニティ主導で多くの活用事例 (台本作成、LINEボット、Slackボットなど) が共有されている⁵⁸。特筆すべきは、リコーが社内の業務効率化と顧客向けプライベートLLMソリューション構築のためにDifyを採用したことであり、これはエンタープライズレベルでの重要な採用実績と言える⁵²。
- **Botpress:** 対話型AIエージェントの構築に特化したプラットフォームで、強力なビジュアルビルダーと「GPTネイティブ」なアプローチを特徴とする⁶⁰。クラウド版とエンタープライズ向けのオンプレミス版を提供し、非開発者向けの使いやすさと、開発者向けの柔軟性を両立させている⁶¹。豊富な連携ライブラリと、Discordを中心とした活発なコミュニティサポートも強みである⁶¹。
 - 価格: 寛容な無料プランと従量課金制を基本とし、利用量やコラボレーション機能に応じてスケールする有料プラン (Plus, Team, Enterprise) が用意されている⁶²。
 - 日本での適合性: 公式ウェブサイトやUIが完全に日本語化されており、日本市場へのコミットメントがうかがえる⁶⁰。大手企業の導入事例は本調査の範囲では確認できなかったが、その使いやすさと、競合の活用事例にも見られるLINEのような顧客接点チャネルへの適応性の高さから、日本の中小企業市場や大企業の部門単位での導入において有力な候補となる²³。YouTube上で日本語のチュートリアル動画が存在することから、草の根レベルでの普及が進んでいることが示唆される⁶⁵。

4.2 特化型国際プレイヤー: Coze by ByteDance

- **アーキテクチャと戦略:** TikTokを運営するByteDance社が提供する、あらゆるスキルレベルのユーザーを対象としたAIアプリケーション開発プラットフォーム⁶⁶。視覚的なビルダー、OpenAI、Google、Anthropicなどの主要モデルに加えて自社製モデル(Doubaoなど)を含む幅広いモデル選択肢、豊富なプラグインと記憶機能(長期記憶、データベースなど)を特徴とする⁶⁶。最大の差別化要因は、ビジネスチャットツールLark(中国国内ではFeishu)との深くネイティブな統合であり、エージェントがLark DocsやSheetsを直接読み書きできる点にある⁶⁸。複雑なタスクに対応するためのマルチエージェントモードもサポートしている⁶⁷。
- **価格:** クレジットベースのフリーミアムモデル。無料プランでも十分な機能が利用でき、有料プラン(Premium Lite, Premium, Premium Plus、月額\$9から)では、より多くの日次クレジットとコラボレーター数が提供される⁵⁷。
- **日本市場への適合性:** ByteDanceはTikTokを通じて日本で大きな存在感を持つが、Cozeの競争優位性はLarkの普及度に大きく依存する。コラボレーションツールとしてLarkを標準採用している日本企業にとっては、競合他社が再現困難なレベルのシームレスなワークフロー自動化を実現できる⁶⁸。しかし、Microsoft 365やGoogle Workspaceといった他のスイートを利用している企業にとっては、その価値は他のローコードプラットフォームと比較して限定的になる可能性がある。ある比較記事では、日本語対応は「△」(改善の余地あり)と評価されている⁵⁷。ByteDanceが自社のTikTokやLarkといったサービスでCozeを内部利用している事実は、そのプラットフォームの堅牢性を示している⁷¹。

Section 5: 国内戦線: 日本独自のAIエージェントエコシステム

日本のAIエージェント市場は、単にグローバルなテクノロジーを受け入れる受動的な場ではない。そこには、二つの異なるタイプのプレイヤーから成る活発なエコシステムが存在する。第一に、深い国内市場理解とパートナーシップを武器に競争するアプリケーション層のスタートアップ(例:Felo, JAPAN AI)。第二に、国内外の次世代エージェントシステムの基盤となりうるコア技術を開発する基盤層のイノベーター(例:Sakana AI, 富士通)である。

この二層構造の存在は、グローバルプレイヤーにとって、単なる「翻訳と販売」というアプローチでは攻略できない、より複雑で洗練された市場であることを示している。アプリケーション層のプレイヤーは、日本の特定のビジネス課題を解決するためのローカライズ戦略を採る。一方、基盤層のイノベーターは、AI開発の「つるはしとシャベル」を提供することで、市場全体の可能性を押し上げようとしている。

表3: 日本国内の主要AIエージェント関連プレイヤーの概要

プレイヤー	主要な提供価値	ターゲット市場・ユースケース	主要な差別化要因・戦略
Felo Agent	テーマ特化型AIエージェント作成プラットフォーム	広告、コンテンツビジネス	大手日本企業(博報堂DY ONE)との戦略的提携
JAPAN AI AGENT	日本の職種に特化した「AI社員」	営業、マーケティング、経理など	高度な日本語処理と手厚い導入コンサルティング
Sakana AI	革新的なAIモデル開発手法(進化的モデルマージ)	AI開発者、研究者、AIエコシステム全体	専門分野に特化した高性能モデルを効率的に開発・オープンソース化
富士通	マルチAIエージェントによるセキュリティ技術	大企業のITシステムセキュリティ、LLMアプリケーション開発者	協調型AIエージェントによるプロアクティブな脆弱性対策

出典:⁵

5.1 国産プラットフォーム: Felo Agent & JAPAN AI AGENT

- **Felo Agent:** 東京に拠点を置くFelo Inc.が開発。同社が提供するAI検索エンジン「Felo Search」などの製品群の一部である⁵。ユーザーはプロンプトを定義しモデルを選択する

ことで、特定のテーマに沿ったAIエージェントを作成できる⁷⁶。その主要戦略は、日本の大手企業とのパートナーシップにある。特に、広告・コンテンツビジネスの革新を目指す博報堂DY ONEとの戦略的提携は、その象徴である⁵。

- **JAPAN AI AGENT:** 日本市場向けに明確に開発されたプラットフォームで、営業、マーケティング、経理といった特定の職種に対応する「AI社員」を事前構築済みで提供する点が特徴である⁷²。高度な日本語処理能力と、企業のニーズに応じたカスタマイズ性を強みとしている⁷²。同社は関連AIサービス(JAPAN AI SALES, CHAT, SPEECH)も展開しており、導入から活用までを支援する手厚いカスタマーサクセスやコンサルティングを提供することで、顧客の定着を図っている⁷³。

5.2 基盤技術のイノベーター: Sakana AI & 富士通

- **Sakana AI:** 東京を拠点とし、世界的に高い評価を受けるAIスタートアップ。「進化的モデルマージ」と呼ばれる革新的なアプローチに注力している⁷。これは、巨大なモデルを一から学習させるのではなく、既存の特化型モデルを効率的に組み合わせることで、新たな高性能モデルを創出する手法である。この技術により、日本語の数学問題に特化したモデル(EvoLLM-JP)や、画像と言語を扱うモデル(EvoVLM-JP)、さらには浮世絵を生成する文化的なモデル(Evo-Ukiyoe)といった、ユニークで高性能なモデルがオープンソースで公開されている⁷。彼らの戦略は、単一のプラットフォームを提供するのではなく、特化型AIへのアクセスを民主化し、日本のAIエコシステム全体のエンジンとなることである⁷。また、スマートフォンなどのデバイス上で動作可能な小規模言語モデル(SLM)もリリースしている⁸⁰。
- **富士通:** 日本を代表するテクノロジーグローバルリットであり、「マルチAIエージェントセキュリティ技術」という特化型フレームワークを開発している⁷⁴。これは汎用的なエージェントビルダーではなく、「攻撃者エージェント」と「防御者エージェント」といった複数のAIエージェントが仮想環境上で協調し、ITシステムに存在する未知の脆弱性を悪用される前にプロアクティブに発見・対処するセキュリティソリューションである⁸²。この技術は、AIの自律性が高まる中で企業が直面する最も重大な懸念事項の一つに対応するものであり、富士通を日本における信頼性の高いAI導入のキープレイヤーとして位置づけている。同社はまた、営業提案資料の作成など、社内業務にもマルチAIエージェントを活用している⁸²。

Section 6: 戦略的統合と市場展望

6.1 総合競合分析マトリクス

本レポートの分析を統合し、主要なプラットフォームを多角的に比較するため、以下のマスターマトリクスを提示する。これは、シニアITリサーチアナリストが各プラットフォームの戦略的ポジショニング、技術的アプローチ、および日本市場への適合性を迅速に評価するための中心的

な成果物である。

表4: 日本市場向けAIエージェントプラットフォーム 総合競合分析マトリクス

属性	Google Agent Space	AWS Bedrock Agents	Azure AI Foundry	Salesforce Agentforce	Dify	Botpress	Coze	Felo Agent	JAPAN AI AGENT
プラットフォームのアイデンティティ									
核心的哲学	統合スイート	開発者ツールキット	埋め込みエコシステム	CRM中心自動化	オープンソース/ローコード	ローコード対話AI	ローコード/エコシステム	ローカライズド・プラットフォーム	ローカライズド・サービス
主要ターゲット	ビジネスユーザー	クラウド開発者	M365/Azure開発者	Salesforceユーザー/開発者	開発者/中小企業	ビジネス/開発者	全レベルのユーザー	日本のビジネスユーザー	日本のビジネスユーザー
技術アーキテクチャ									
ネイティブなマルチエージェント	○ (ADK/A2A)	○	○ (Auto Gen)	○ (Atlas Engine)	○	○	○	-	○
主要RAG手法	Enterprise Knowl	Knowledge Bases	Azure AI Searc	Data Cloud	内蔵RAGエンジン	Knowl edge Base	Knowl edge	Felo Searc h	独自RAG

	edge Graph		h						
開発者ツール	ADK, API	API, SDK	Semantic Kernel, AutoGen	Python SDK, Apex, API	API, Self-host	API, SDK	API, Web SDK	API	API
ノーコード/ローコード	○ (Agent Designer)	△ (Flows)	○ (Copilot Studio)	○ (Agent Builder, Flow)	○ (Workflow)	○ (Visual Builder)	○ (Visual Builder)	○	○
エコシステムと統合									
親エコシステム	Google (Workspace, Search)	AWS	Microsoft (M365, Azure)	Salesforce	-	-	ByteDance (Lark)	-	-
オープンソース	○ (ADK, A2A)	-	○ (Auto Gen)	-	○ (Core Platform)	○ (v12)	-	-	-
経済モデル									
価格パラダイム	サブスクリプション	従量課金	従量課金	クレジット/アドオン	フリーミアム	フリーミアム	フリーミアム	要問合せ	要問合せ/コンサル
主要課金単位	ユーザー/月	トークン, 時間, 実行回数	サービス毎の利用量	アクション (クレジット)	メッセージクレジット	メッセージ機能	クレジット	-	-

日本市場フォーカス									
日本リージョンDC	○	○	○	○	-	-	-	-	-
日本語UI/Docs	○	○	○	○	△	○	△	○	○
国内導入事例	-	○	○	○	○	△	-	○	○
国内パートナー	-	○(富士通等)	○(多数)	○(多数)	○(リコー)	-	-	○(博報堂DY ONE)	-

出典: 本レポート全体からの統合分析⁹

6.2 主要な戦略的差別化要因と意思決定因子

- **エコシステムへのロックイン vs オープンな柔軟性:** ハイパースケーラーは、自社の広大なクラウドエコシステムとの深く強力な統合を提供するが、これはベンダーロックインのリスクを伴う²⁵。対照的に、DifyやBotpressのようなオープンソースおよびローコードプラットフォームは、柔軟性と低い初期導入障壁を提供するが、シームレスな統合にはより多くの開発努力が必要となる場合がある⁵³。日本企業は、このトレードオフを自社のIT戦略と照らし合わせて慎重に評価する必要がある。
- **開発者中心 vs ビジネスユーザー中心:** この二項対立は、プラットフォーム選定における重要な分岐点である。AWS Bedrockのような開発者中心のプラットフォームは、熟練した技術チームがオーダーメイドのソリューションを構築する際に、粒度の細かい制御性を提供する³⁰。一方、Google Agent SpaceやBotpressのようなビジネスユーザー中心のプラットフォームは、開発の迅速性とアクセシビリティを提供し、IT部門のボトルネックなしに各業務部門が自らの課題を解決することを可能にする⁸³。
- **水平的フォーカス vs 垂直的フォーカス:** Google Agent Spaceのように、全部門にわたる

汎用的な生産性向上を目指す水平的プラットフォームと、Salesforce AgentforceのようにCRMという特定の領域や、JAPAN AI AGENTのように日本の特定の業務にレーザーフォーカスする垂直的プラットフォームが存在する²。企業の課題が特定の業務領域に集中している場合、垂直的ソリューションがより迅速かつ効果的な価値を提供する可能性が高い。

6.3 日本企業への推奨事項

プラットフォームの選定は、企業の規模、業種、既存の技術スタック、そして戦略的目標に基づいて行われるべきである。

- **AWS/Azure**スタックを保有する大企業向け: 既存のインフラを拡張し、社内の開発者人材を活用する観点から、BedrockまたはAzure AI Foundryが論理的な選択肢となる。どちらを選択するかは、どちらのクラウドがプライマリであるかに依存する。
- **Salesforce**を標準とする企業向け: 顧客対応や営業プロセスの自動化を目指す場合、Agentforceがその比類なきData Cloud統合により、議論の余地なく最有力候補となる。
- **Google Workspace**を標準とする企業向け: 社内の生産性向上とナレッジマネジメントの改善を目指す場合、Google Agent Spaceが最もシームレスな導入経路を提供する。
- 俊敏性と低コストを求める中小企業や部門向け: DifyとBotpressは、迅速な開発、ローコードインターフェース、そしてコスト効率の高いスケーリングを提供するため、優れた出発点となる。リコーの事例は、Difyがエンタープライズのニーズにも対応可能であることを示している⁵²。
- 高度にローカライズされたソリューションを求める企業向け: Felo AgentやJAPAN AI AGENTのような国内プロバイダーとの連携は、特に彼らのパートナーシップやコンサルティングモデルを通じて、日本の市場の機微により適合したソリューションをもたらす可能性がある⁵。

6.4 将来展望

- 相互運用性の台頭: A2Aプロトコルのような標準化の動きは、将来の市場において極めて重要となる³。未来は、異なるベンダーのエージェントが協調して動作するハイブリッドなマルチエージェントの世界になる可能性が高い。オープンな標準を受け入れるプラットフォームが長期的な優位性を持つだろう。
- プラットフォームの収斂: プラットフォーム間の境界は曖昧になっていくだろう。ローコードプラットフォームはより多くのプロコード機能を追加し、プロコードプラットフォームはよりアクセスしやすいUIレイヤーを構築する。しかし、競争の主戦場は、基盤となるデータとエコシステムとの統合であり続ける。
- 基盤技術イノベーターの影響: Sakana AIのような企業が生み出す技術は、あらゆる企業が自社独自の、専門的かつコスト効率の高いモデルを作成することを可能にし、ハイパースケALERが提供する大規模汎用モデルへの依存を低下させることで、市場を破壊する可能性がある⁷。
- セキュリティの必須要件化: エージェントの自律性が高まり、より多くの権限が付与されるにつれて、セキュリティとガバナンスはエンタープライズ導入における最も重要な要件となる。富士通が開発するようなマルチエージェントセキュリティフレームワークは、あらゆるエンタープライズ展開において不可欠なコンポーネントとなるだろう⁷⁴。

引用文献

1. Build AI Agents with Vertex AI: A Step-by-Step Guide - GeekyAnts, 6月 18, 2025|にアクセス、
<https://geekyants.com/blog/build-ai-agents-with-vertex-ai-a-step-by-step-guide>
2. Agentforce Guide: How To Get Started - Salesforce, 6月 18, 2025|にアクセス、
<https://www.salesforce.com/agentforce/guide/>
3. Vertex AI Agent Builder | Google Cloud, 6月 18, 2025|にアクセス、
<https://cloud.google.com/products/agent-builder>
4. Robert Angeli breaks down key takeaways from Google Cloud Next 2025, where AI agents became tools for everyone. - GFT, 6月 18, 2025|にアクセス、
<https://www.gft.com/us/en/blog/in-case-you-missed-it-google-cloud-next-ii-2025>
5. Felo and Hakuholdo DY ONE Form Strategic Partnership - ITBusinessToday, 6月 18, 2025|にアクセス、
<https://itbusinesstoday.com/martech/marketing/felo-and-hakuholdo-dy-one-form-strategic-partnership/>
6. お客様事例 | セールスフォース・ジャパン - Salesforce, 6月 18, 2025|にアクセス、
<https://www.salesforce.com/jp/customer-success-stories/>
7. 【2025】サカナ AIとは？開発した最新技術と仕組み・日本語の大規模言語モデルを紹介！, 6月 18, 2025|にアクセス、
<https://ai-kenkyujo.com/news/sakana-ai/>
8. What is Azure AI Foundry Agent Service? - Learn Microsoft, 6月 18, 2025|にアクセス、
<https://learn.microsoft.com/en-us/azure/ai-services/agents/overview>

9. Google Agentspace, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://cloud.google.com/products/agentspace>
10. Google Agent Space | AgentSpace.cc, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://agentspace.cc/>
11. What Is Google Agentspace And How Does It Work? - Stewart Gauld, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://stewartgauld.com/what-is-google-agentspace/>
12. Google Agentspace: Building Custom AI Agents for Enterprise Search | Blott Studio, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://www.blott.studio/blog/post/google-agentspace-building-custom-ai-agents-for-enterprise-search>
13. Introduction to Google Agentspace, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://cloud.google.com/agentspace/docs/overview>
14. Google Agentspace: Scalable Enterprise AI - Cloudfresh, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://cloudfresh.com/en/products/agentspace/>
15. Agent Development Kit: Making it easy to build multi-agent applications, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://developers.googleblog.com/en/agent-development-kit-easy-to-build-multi-agent-applications/>
16. Google Agentspace: NotebookLM, AI agents and internal search, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://blog.google/feed/google-agentspace/>
17. Google Agentspace - An early look and demo - YouTube, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://www.youtube.com/watch?v=duUoQaSmGpw&pp=0gcJCdgAo7VqN5tD>
18. 5 key AI announcements from Google Cloud Next 2025 - SADA, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://sada.com/blog/5-key-ai-announcements-from-google-cloud-next-2025/>
19. Agent Development Kit - Google, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://google.github.io/adk-docs/>
20. 6 highlights from Google Cloud Next 25, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://blog.google/products/google-cloud/google-cloud-next-25-recap/>
21. Google Cloud launches Agentspace to create, deploy agents | Constellation Research Inc., 6月 18, 2025にアクセス、
<https://www.constellationr.com/blog-news/insights/google-cloud-launches-agentspace-create-deploy-agents>
22. 日本企業のビジネスニーズに応える生成系 AI - Amazon Bedrock の可能性 - AWS, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://aws.amazon.com/jp/blogs/news/amazon-bedrock-launch-seminar-japan/>
23. 【2025年最新】おすすめ業務用AIエージェント7選 | 各ツールの特徴を徹底比較 - 経営デジタル, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://keiei-digital.com/column/ai-agent/business-ai-agent-recommendations/>
24. Amazon Bedrock Documentation, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://docs.aws.amazon.com/bedrock/>
25. Azure AI Foundry—the AI app and agent factory, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://azure.microsoft.com/en-us/products/ai-foundry>
26. Amazon Bedrock Pricing Explained: What You Need to Know - Cloudchpr, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://cloudchpr.com/blog/amazon-bedrock-pricing>

27. Azure AI Foundry Agent Service | Microsoft Azure, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://azure.microsoft.com/en-us/products/ai-agent-service/>
28. What is Amazon Bedrock? - Amazon Bedrock - AWS Documentation, 6月 18, 2025
にアクセス、
<https://docs.aws.amazon.com/bedrock/latest/userguide/what-is-bedrock.html>
29. AI Agents – Amazon Bedrock Agents – AWS, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://aws.amazon.com/bedrock/agents/>
30. Amazon Bedrock Documentation - AWS, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://aws.amazon.com/documentation-overview/bedrock/>
31. Amazon Bedrock Pricing: How Much It Costs (+ Cost Optimization Tips) -
CloudZero, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://www.cloudzero.com/blog/amazon-bedrock-pricing/>
32. Pricing of AWS Bedrock Agents, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://repost.aws/it/questions/QU9Q9nxSogR9C4D878NhnHug/pricing-of-aws-bedrock-agents>
33. AWS 導入事例: KINTOテクノロジー株式会社, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://aws.amazon.com/jp/solutions/case-studies/kinto-technologies/>
34. セゾンテクノロジー様の AWS 生成 AI 事例: Amazon Bedrock を活用してサポートエンジニアの回答作成時間を最大 30 % 短縮, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://aws.amazon.com/jp/blogs/news/gen-ai-usecase-saison-technology/>
35. Amazon Bedrockの特徴と社内活用事例について紹介します : 富士通 - Global (English), 6月 18, 2025にアクセス、
<https://www.fujitsu.com/jp/solutions/infrastructure/construction/multi-cloud/aws/event-column/amazon-bedrock.html>
36. 株式会社フレイ・スリー様の AWS 生成 AI 活用事例: Amazon Bedrockを活用し、企業の動画活用における課題特定と解決策提示の自動化機能を構築。サポート部門の業務効率化を実現。 | Amazon Web Services ブログ, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://aws.amazon.com/jp/blogs/news/genai-case-study-hurray3/>
37. Azure AI Foundry Agent Service, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://azure.microsoft.com/en-us/products/ai-agent-service>
38. Azure AI Foundry - Pricing, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://azure.microsoft.com/en-us/pricing/details/ai-foundry/>
39. Azure AI Search pricing, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://azure.microsoft.com/en-us/pricing/details/search/>
40. Pricing Calculator | Microsoft Azure, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://azure.microsoft.com/en-us/pricing/calculator/>
41. Azure OpenAI Serviceの導入事例11選！業務効率を革新的に高める活用方法を解説 | WEEL, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://weel.co.jp/media/azure-openai-service-casestudy/>
42. マイクロソフト お客様導入事例 - Microsoft, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://www.microsoft.com/ja-jp/customers>
43. 日本マイクロソフトのレポート【日本の最新事例: AI エージェントで実現する業務効率化とイノベーション】で、ヘッドウォーターズが支援している大和証券と西日本旅客鉄道の AI 活用事例が紹介されました, 6月 18, 2025にアクセス、
https://www.headwaters.co.jp/news/microsoft_headwaters_ai_agents_latest_case

- [_studies_from_japan.html](#)
44. Ultimate Salesforce Agentforce Guide - Apex Hours, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://www.apexhours.com/salesforce-agentforce/>
 45. Salesforce Data Cloud: key features and DevOps considerations - Gearset, 6月 18, 2025にアクセス、<https://gearset.com/blog/salesforce-data-cloud/>
 46. Get Started with Agentforce Agents - Salesforce Developers, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://developer.salesforce.com/docs/einstein/genai/guide/get-started-agents.html>
 47. Salesforce+ Bring Your Own LLMs to Agentforce and Data Cloud, 6月 18, 2025にアクセス、
https://www.salesforce.com/plus/experience/tdx_2025/series/developers_at_tdx_2025/episode/episode-s1e4
 48. Salesforce Agentforce Pricing, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://www.salesforce.com/agentforce/pricing/>
 49. Salesforce Introduces New Flexible Agentforce Pricing to Accelerate the Digital Labor Revolution, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://www.salesforce.com/news/press-releases/2025/05/15/agentforce-flexible-pricing-news/>
 50. Salesforce、Agentforce 2.0を発表 — 制限のないデジタル労働力を生み出すプラットフォームを提供 | 株式会社セールスフォース・ジャパンのプレスリリース, 6月 18, 2025にアクセス、<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000261.000041550.html>
 51. Salesforce、世界最大規模の自律型AI導入事例としてAgentforceを自社で運用, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://www.salesforce.com/jp/news/stories/agentforce-customer-zero/>
 52. リコー、生成AIアプリ開発プラットフォーム「Dify」を活用した社内実践を開始し, 6月 18, 2025にアクセス、https://jp.ricoh.com/release/2024/1128_1
 53. Dify: Leading Agentic AI Development Platform, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://dify.ai/>
 54. Dify Docs: Introduction, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://docs.dify.ai/en/introduction>
 55. langgenius/dify: Production-ready platform for agentic workflow development. - GitHub, 6月 18, 2025にアクセス、<https://github.com/langgenius/dify>
 56. Dify Rolls Out New Architecture, Enhancing Flexibility and Scalability - Dify Blog, 6月 18, 2025にアクセス、<https://dify.ai/blog/dify-rolls-out-new-architecture>
 57. 【Difyと比較】Coze使い方徹底解説 - 株式会社Nuco, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://nuco.co.jp/blog/article/5lbVpRrQ>
 58. Dify(ディファイ)とは？事例や使い方、商用利用まで完全解説！ | AI Walker - 株式会社Walkers, 6月 18, 2025にアクセス、<https://walker-s.co.jp/ai/what-is-dify/>
 59. 【随時更新】Difyでできること・活用事例15選をまとめて紹介！ | AI Walker - 株式会社Walkers, 6月 18, 2025にアクセス、<https://walker-s.co.jp/ai/dify-case/>
 60. Japanese chatbot solution | Botpress - #1 conversational bot for Japanese speakers - Japanese bot, Japanese conversational bot, GPT-4 Japanese chatbot for businesses, Japanese chatbot compatible with all platforms and systems, 6月 18, 2025にアクセス、<https://botpress.com/best-japanese-chatbot>

61. Botpress | The Complete AI Agent Platform, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://botpress.com/>
62. 完全なAIエージェント・プラットフォーム - Botpress, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://botpress.com/ja>
63. Page 7 | Botpress Reviews 2025: Details, Pricing, & Features - G2, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://www.g2.com/products/botpress/reviews?page=7>
64. Choosing the Right LLM Agent Framework in 2025 - Botpress, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://botpress.com/blog/llm-agent-framework>
65. 【中小企業DX】これはすごい！！ ChatGPT連携のチャットボット botpress - YouTube, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://www.youtube.com/watch?v=oXp3HXMtDYA>
66. What is Coze - Document, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://www.coze.com/open/docs/guides>
67. Agent overview - Document - Coze, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://www.coze.com/open/docs/guides/features>
68. ByteDance launches Coze, its new AI agent platform, in beta - Kr Asia, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://kr-asia.com/bytedance-launches-coze-its-new-ai-agent-platform-in-beta>
69. Coze Review: Features, Pricing, and Alternatives - FindMyAITool.io, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://findmyaitool.io/tool/coze/>
70. Coze premium pricing plans, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://www.coze.com/premium>
71. Rspack 1.0 Released, 23x Faster than Webpack, Compatible with Top 50 Webpack Plugins, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://www.infoq.com/news/2024/10/rspack-released/>
72. 【2025年】AIエージェントツールのおすすめ10選！ 選び方についても解説！ - Qiita Select, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://qiita.com/qiita-select/articles/ai-agent-tools-recommendations>
73. 『JAPAN AI AGENT』【製品概要・料金価格】 - IT-EXchange, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://www.it-ex.com/products/maker/japan-ai/japan-ai-agent.html>
74. AIエージェントの革新: 生成 AI技術の限界を超えて - Fujitsu Global, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://global.fujitsu/-/media/Project/Fujitsu/Fujitsu-HQ/technology/key-technologies/news/ta-ai-agent-innovation-20250328/ta-ai-agent-innovation-20250328-jp.pdf?rev=469155cc91854ef2b43cb02fd86e2cdb&hash=EBC098F2424B989D689224A366273BB8>
75. About Us Felo AI | Felo Search Blog, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://felo.ai/blog/about-us/>
76. Felo AI Agent Creation Tutorial | Felo Search Blog, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://felo.ai/blog/how-to-create-felo-ai-agent/>
77. AIエージェント「リスティング広告最適化エージェント」の提供を開始 - PR TIMES, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000092.000124536.html>
78. ジーニーのグループ会社 JAPAN AI、営業部門向けAIエージェント「JAPAN AI SALES」を提供開始！ | ニュース, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://geniee.co.jp/news/20250616/849>
79. Sakana AIとは？概要から歴史、天才二人が開発した浮世絵生成AIの使い方まで徹底

- 解説【Evo-Ukiyoe / Evo-Nishikie】 | WEEL, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://weel.co.jp/media/innovator/about-sakanaai/>
80. Sakana AI、高性能かつ小規模な日本語言語モデルを発表。スマートフォンやPCでも動作可能に、6月 18, 2025にアクセス、
https://aismiley.co.jp/ai_news/taid-tinyswallow-sakanaai/
 81. 脆弱性や新たな脅威への事前対策を支援するマルチAIエージェントセキュリティ技術, 6月 18, 2025にアクセス、
https://documents.research.global.fujitsu.com/mlt-scrty/?utm_source=techblog&utm_medium=referral&utm_campaign=20241212-mlt-scrty-SB
 82. "AI×世界をリードする技術"の融合で戦う、富士通独自AIへ挑戦 - Fujitsu Global, 6月 18, 2025にアクセス、
<https://global.fujitsu/ja-jp/insight/tl-tsb-20250110>
 83. 【2025年版】AIエージェントの比較ポイントとおすすめツールを紹介！ - ITトレンド, 6月 18, 2025にアクセス、
https://it-trend.jp/ai_agent/article/1095-5027